平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ８３ ※記入不要	提案機関名	フラワーセンター大船植物園

要望問題　棘なしバラ品種の育成法の解明と実用品種の開発

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

バラの棘は鋭く、切りバラ生産における栽培管理や出荷作業の妨げになっている。今までも、棘のない品種はいくつか育成されたが、いずれも樹勢が弱い等の理由により実用品種とはなっていない。

今後、広くバラ品種の棘なし化を図ることは、切りバラ栽培の生産効率を高めるだけでなく、ガーデンローズの普及にも大きく寄与すると考えられることから、棘なし品種の育成手法を明らかにするとともに、樹勢、花形、花色等に優れた実用品種の開発をお願いしたい。

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　[④５～１０年以内]
研究対応区分	[①研究所対応]　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	[①農業総合研究所]（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：	生物資源部
対応区分	①実施　[②実施中]　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）
かながわらしい特産品の開発（花き類の新品種育成）

対応の内容等

トゲのないバラ、トゲの少ないバラは、作業性、商品性などに優れ、特に切り花用品種や台木品種などで利用されています。すでに、神奈川県では、台木用品種としてトゲのないノイバラ品種「Ｋ１」「Ｋ２」等の育成を行ってきました。トゲのないバラは、一般的にトゲのある系統より樹勢が弱く、利用しにくい欠点を持っています。しかし、作業性、商品性等を考慮すると、トゲの少ない系統を育成することは必要です。

現在、交配によるバラの新品種育成試験で優良系統を効率的に育成するために、１次選抜の調査項目の中に、トゲの強さの項目を設け、調査を行っています。これらのデータを蓄積することにより、トゲの強弱や有無に関する遺伝発現の優劣等が解明され、切り花用品種やガーデンローズ等の実用的な育種に利用できるとものと考えられます。また、苗生産における接ぎ木効率を上げるため台木用品種である「オドラータ」について、トゲの少ない系統を現在育成中です。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　[④５～１０年以内]
備　考	